

11月の主な行事

1日 : 紅茶の日、計量記念日	15日 : 七五三、かまぼこの日
3日 : 文化の日	17日 : 将棋の日
7日 : 立冬	19日 : 鉄道電化の日
9日 : 119番の日、換気の日	23日 : 勤労感謝の日
11日 : 電池の日、靴下の日	28日 : 税関記念日



今月のかわら版 : 1 「落語の世界」

八つあん熊さんの昔から、21世紀まで引き継がれ、一貫して庶民の娯楽の王道を生きる落語。落語をテーマにしたテレビ番組や映画が増えていることもあり、なんとなく落語に興味をもっている人も多いのではないのでしょうか。ざっと300年以上の歴史があり日本を代表する貴重な文化ともいえます。

落語とは

こっけいな話の終りにおち・さげ（落語で最後のせりふ）の付いている寄席芸のこと。「落とし噺（おとしばなし）」「はなし」とも言います。演劇や舞踊といったほかの芸能が、衣装などを伴って演技されるのに対し、落語は身振り手振りのみで噺を進め、一人何役をも演じます。講談や浪曲と同じ語り芸ですが、会話を主として話が進行することが大きな違いです。

落語の歴史

安土桃山時代から江戸時代前期に生きた浄土宗の僧「安楽庵策伝（あんらくあんさくでん）」が、落語の祖と言われています。戦国大名の傍で話相手をしたり、世情を伝えたりする御伽衆（おとぎしゅう）の一人で、秀吉の前で滑稽なオチのつく噺を披露して、大いに喜ばれました。その後、江戸時代に入ると江戸では「鹿野武左衛門」、大阪では「米沢彦八」、京都では「露の五郎兵衛」などが活躍しました。

落語家は伝統的に「噺家（はなしか）」とも呼ばれ、師匠の元で厳しい修行を積み、一人前になるまで何年もかかります。

見習い

弟子入りを志願した師匠から入門の許可を得た落語家の卵。師匠宅で師匠・その家族のために家事などの下働き・雑用をする。

前座（ぜんざ）

仏教における前座（まえざ・高僧が連れて歩き、説教をする前に出て話をした修業僧）が語源。寄席での仕事が課せられ、寄席で「開口一番」と呼ばれる最初の一席を受持つ場合もある。

二つ目（ふたつめ）

だるまに二つの目を入れられるほど、芸が開眼したという意味で、一人前の落語家として認められる。紋付の羽織を着ることができる。

真打（しんうち）

「（蠟燭の）芯を打つ」ことから転じた。ロウソクは江戸時代の室内照明で、それを打つ＝消すのは最後に上がる出番の落語家が演じ終わってから。つまりトリのみが消すことができる＝芯を打てるという意味。その名の通り寄席でトリ（最後の出番）を務めることができ、「師匠」と呼ばれる。また弟子をとることが許される。

落語の世界には昔の人々の生活が映し出されています。寄席に行って、江戸時代の暮らしの中にタイムスリップしてみたいはいかがですか。

今月のかわら版 : 2 「乗鞍岳の熊襲撃は、地球温暖化も原因のひとつ？」



9月19日に岐阜県高山市の乗鞍岳山頂バスターミナルで観光客9名がツキノワグマに襲われるという痛ましい事故が発生いたしました。現場となったバスターミナルは魔王岳（標高約2764メートル）近くの平地にあり、魔王岳を含む北アルプス地域では今年度は8件の目撃情報があったそうです。

ツキノワグマの生息域は通常、標高800メートルから2000メートル程度までの範囲で生息するといわれ、標高2000メートル以上に現れたことについて「通常では考えにくい」と専門家の方が指摘されています。

2007～2008年に岐阜県が行った調査では、県内には約1200～1400頭のツキノワグマが生息しているとの報告がされています。今年度は、岐阜県内で181頭の目撃情報があり、うち57頭が高山市内から寄せられていたそうです。目撃情報は年々増える傾向にあるようです。

では、何故、ツキノワグマの目撃情報が増えているのでしょうか。ツキノワグマの食性は雑食性といわれていますが、植物食への依存度がとても高い動物です。森の中のドングリやブナの実を大量に食べ脂肪を貯え、冬眠に備えるのが習性のようなのです。

しかしながら、森に食料が見つげにくくなる6月～9月には森から人里まで下りてきてトウモロコシやリンゴなどの農作物を食べることがしばしば発生しています。特に、ドングリやブナの実が不作な年は深刻のようです。

熊の生息に詳しい専門家の方には、地球温暖化など近年の環境の変化で、餌となるドングリやブナの実が従来の生息地で見つけるのが困難となり、本来の生息地ではない場所に餌を求めて現れるケースが近年、目立ってきていると指摘される方もいらっしゃいます。特に、里山地域から人間が離れる際に放置された果樹などが熊にとっては格好な食料になるそうです。

結局、我々人間が引き起こした地球温暖化をはじめ動物たちと共存できる豊かな自然の破壊がツキノワグマを人里に近づけているようです。

これからは、豊かな自然を残していくように地球温暖化防止や森林の保全を進め、人間にとってもツキノワグマにとっても安心して暮らせる社会にしたいものです。

